

# 出会い

No. **85** 2022. 3.17

キリスト教委員会



「道」 (@Miki Arisaka)

「心にかなう道を、目に映るところに従って行け」 (コヘレトの言葉11章9節)

## 天使をもてなす愛 (ヘブライ人への手紙13章1 - 2節)

—内側の愛から外側の愛へ—

宗教主任・循環農学類キリスト教応用倫理学研究室 **小林 昭博**

## 酪農学園大学の卒業生として好奇心によって革新を

環境共生学類 資源再利用学研究室 **押谷 一**

## 「Forever young」

獣医学類 感染病理学分野 実験動物学ユニット **大杉 剛生**

## 循環農法と聖書

宗教主任 **小林 昭博**

## 天使をもてなす愛 (ヘブライ人への手紙13章1 - 2節)

### —— 内側の愛から外側の愛へ ——



宗教主任・循環農学類キリスト教応用倫理学研究室 小林 昭博

「兄弟愛が続くようにしなさい。」寄留者を愛することを忘れてはなりません。この愛のゆえに、知らないうちに天使たちを歓待した人たちがいたのです。

(ヘブライ人への手紙13章1 - 2節 [私訳])

### 兄弟愛と寄留者を愛すること

ヘブライ書13章1 - 2節は「兄弟愛」(兄弟を愛すること)と「寄留者を愛すること」(寄留者愛)の大切さを教えています。「兄弟愛」はギリシャ語で——アメリカの都市名にもなっている——philadelphiaと言いますが、philia(愛)とadelphos(兄弟)から成る合成語です。「寄留者を愛すること」と訳したのはphiloxeniaというギリシャ語ですが、philia(愛)とxenos(寄留者)から成る合成語ですので、直訳すると「寄留者愛」となるのですが、日本語としては小慣れていませんので、「寄留者を愛すること」と訳してみました。

卒業生のみなさんが大学で用いてきた新共同訳聖書では、ヘブライ書13章1 - 2節は「<sup>1</sup>兄弟としていつも愛し合いなさい。<sup>2</sup>旅人をもてなすことを忘れてはいけません。そうすることで、ある人たちは、気づかずに天使たちをもてなしました」と意識されています。わたし自身も新共同訳の訳文に慣れていましたので、2節をギリシャ語原文で読んだときに、原文の持つニュアンスに反対に違和感を覚えたのですが、ヘブライ書は「兄弟愛」(兄弟を愛すること)と「寄留者を愛すること」(寄留者愛)の双方をセットで大切な教えとして明示していることが分かります。

### 内側の愛と外側の愛

1節の「兄弟愛が続くようにしなさい」は、「兄弟を大切にすること」の重要性を伝えていますが。これはキリスト教用語ですので、教会内の愛とされる「兄弟愛」や「姉妹愛」と呼び慣わされてきたものです。それを一般的な意味に敷衍すると、「友愛」や「仲間を大切にすること」となりますので、「内側の愛」と言い換えることが可能です。

2節前半の「寄留者を愛することを忘れてはなりません」は、「寄留者を大切にすること」の重要性を伝えていますが。先述したように、「寄留者を愛すること」の原語はphiloxeniaですが、後半部を形成するxeniaの基にあるのはxenosです。この語の本来の意味は「よそ者」や「外の者」ですので、philoxeniaはまさに「外側の愛」を表すのです。

### 内側の愛から外側の愛へ

古代世界において「よそ者」の典型と言えば、町や村を訪れる「旅人」でした。古代中近東世界には「客人保護法」と呼ばれる慣習法が存在しており、xenos(よそ者・旅人)を町に迎え入れ、宿や食事を提供する慣わしがあったゆえに(創世記18章1 - 9節、19章1 - 3節、士師記19章16 - 26節)、新共同訳聖書はphiloxeniaを「旅人をもてなすこと」の

意味に理解しているのです。しかし、古代世界においても「よそ者」や「外の者」は通りすがりの「旅人」だけではなく、当然のことながら外国から来て定住した「寄留者」もいました。

そして、旧約聖書には「寄留者」を大切にするようにと勧める教えが繰り返し現れます（出エジプト記22章20節、23章9節、レビ記19章33－34節、23章22節）。旧約聖書で「寄留者」と訳されているのは *ger* というヘブライ語ですが、この語はその土地の外からやって来た「外来者」を意味します。

このような社会史的背景から推察すると、ヘブライ書の *philoxenia* に含まれる *xenos* とは、「よそ者」や「外の者」として定住するようになった「寄留の外国人」を指していると考えられるのです。したがって、ヘブライ書は「兄弟愛」という「内側の愛」から「寄留者を愛すること」という「外側の愛」へとわたしたちを誘っているのです。

## 天使をもてなす愛

2節後半においてヘブライ書は「この愛のゆえに、知らないうちに天使たちを歓待した人たちがいたのです」と述べています。これは創世記18章1－9節と19章1－3節において、アブラハムとロトが歓待した旅人たちが実は神から遣われた天使たちであり、彼らは知らないうちに天使たちを客人としてもてなしていたという故事を指しています。つまり、ヘブライ書は「よそ者・外の者・寄留者・旅人」を表す「*xenos*をもてなすこと」は神の使いである「天使をもてなす愛」にはほかならないと言っているのです。何と夢のある素敵な発想でしょうか！

キリスト教応用倫理学研究室のゼミ研修で日本最古の神戸ムスリムモスクを訪問し、イスラームの教理や神戸モスクの歴史を教えていただく貴重な機会を与えられたことがあります（写真参照）。モスク内の礼拝堂に入ると、そこはイスラームの宗教空間であり、自分が *xenos* であるとの感覚を持ったのですが、指導者の

ムハマド・ジャファル師は *xenos* であるわたしたちを「天使をもてなす愛」で歓待してくださいました。そして、それは同時に異国の地に「寄留者」(*xenos*)として暮らし、イスラームの平和を広めるジャファル師もまた「天使」にはかないことを実感する機会でもありました。

わたしたちは国際化と聞くと、海外に赴くことについて目を奪われがちになりますが、*philoxenia* が指し示すように、日本において「寄留者を愛すること」や「寄留者を歓待すること」もまた国際化にとって本当に大切なことだと感じるのです。「兄弟愛」に象徴される「内側の愛」を大切にすることはヘブライ書も言うように確かに大切です。しかし、それと同時に「内側の愛」から「外側の愛へ」と歩みを進めることも大切なのです。

近年は日本に限らず、国際的にも排外主義が横行しています。排外主義は自分たちだけを大切にしようとする「内側の愛」であり、そこには「外側の愛」が欠如しています。「外国人嫌悪」と訳される英語の *xenophobia* は、*xeno* (外国人) と *phobia* (嫌悪・恐怖) から構成されています。まさに *xenos* (よそ者・外の者・寄留者) に対する「嫌悪」なのです。しかし、ヘブライ書が語るように、「寄留者を愛すること」や「寄留者を歓待すること」は「天使をもてなす愛」なのです。卒業生のみなさんが、「天使をもてなす愛」によって、「内側の愛から外側の愛へ」と世界を拡げていく未来を心から期待しています。



神戸ムスリムモスク

(写真撮影のために一時的にマスクを外しています)

## 酪農学園大学の卒業生として好奇心によって革新を



卒業式を迎えられたみなさん、ご卒業おめでとうございます。

お一人おひとり入学式から今日まで酪農学園大学で学んだ成果として学位記が授与されました。学位記には、あなたの名前とともに見えない字でそれぞれの学生生活の多くのことが記されていることと思います。

### 苦難の時代

ところが2019年12月に中国で初めて確認された新型コロナウイルスの感染は瞬く間に世界中に拡がり2年以上も経過した今でも多くの人の命を奪い、経済活動にも深刻な影響を与えています。大学においても感染を防ぐために、対面での講義などがオンライン、オンデマンドなどネットを通じたものとなり、それぞれのフィールドでの調査や実験、実習などをはじめ課外活動も大きく制限されました。この数年は自然災害や異常気象が、各地で頻発しており、みなさんご自身やご家族も被害を受けたのではないのでしょうか。このほかにも、これまで当たり前前の日常であったことが、突然大きく変化する社会となっています。

このようなときに未知の社会に飛び立つみなさんも、必ず想定外の荒波に巻き込まれる事態に遭遇することと思います。わたしたち学園の教員、職員

環境共生学類 資源再利用学研究室 押谷 一

は皆、狼の群れの中に羊を放つような思いをもってあなたのことを見ていますが、それはきっと杞憂でしょう。なぜなら、あなたは酪農学園大学を卒業、修了したという事実を身につけているのです。

### 酪農大学というブランド

酪農学園大学はみなさんが想像している以上に、教職員、卒業生、関係者などの強いネットワークがあります。そのネットワークはいつでもどこでもあなたを支えてくれるはずです。それが酪農学園大学というブランドの力なのです。

ところでみなさんご自身はそれぞれの神様を信じていることと思いますが、酪農学園は、キリスト教の精神に基づいて、神、人、土を愛する三愛主義を建学の精神とした人格の完成を目指しています。その一環としてみなさんは聖書を学びました。イエス・キリストの弟子たちが記した新約聖書のヨハネによる福音書15章には「わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である」と書かれています。これはわたしたちが何を中心にして生きるか、だれに頼って生きるかが示されているのです。わたしたちのぶどうの木は酪農学園大学です。いつでも、どこでも学園の卒業生や関係者が枝のようにあなたの周りに生い茂っているはずです。

21世紀に入り20年余りが経過しました。21世紀は半世紀前の高度経済

成長の時代に想像された輝く未来とは異なり、複雑で一寸先も予測することが難しく、格差や分断がキーワードとなるような出口の見えにくい暗いトンネルのなかのような社会です。このような社会を一人で乗り切めることは容易ではありませんが、あなたには支えてくれる学園の教員、スタッフ、卒業生、関係者がいつでもどこにでもいます。荒波のなかで翻弄される小舟のように危険が迫り、心や身体に痛みを感じた時には遠慮なく声を上げてください。きっとだれかが手を差し伸べてくれます。そしてあなた自身も求められた時にはだれかに手を差し伸べてください。それが学園の建学の精神であり、独自性 (identity) なのです。

## 好奇心と革新

昨年、ノーベル物理学賞を受賞した米プリンストン大学上席気象研究員の90歳の真鍋淑郎さんは、「気候変動の研究を本当に楽しんできた。私の研究はすべて好奇心だけに動かされてきた」と繰り返し好奇心 (curiosity) の大切さを語っています。高度に文明が発達した現代ですが、一方で解決が求められる課題が顕在化しています。真鍋さんのご研究のような地球的規模の環境問題から一人ひとりの生活に至るまでこのまま放置することはできないことが山のようにあなたの前に積みあがっています。これらを解決していくためには、あなた自身のcuriosityにもとづいて革新 (innovation) していかねばなりません。現代社会は著しく閉塞していると思われるます。innovationがなければ、停滞するだけでなく衰退するだけです。innovationを進めるための源泉はcuriosityであるのです。

そのcuriosity (好奇心) ですが、一

つのお話しをしておきましょう。わたしたち人類 (ホモ・サピエンス) は、今から20万年～30万年前にアフリカで進化したとされています。アフリカを出た人類の祖先は、急速に世界中に広がり、熱帯から寒帯まで、そして海面近くの島々から高地まで南極大陸を除いて世界に分布しています。アフリカで誕生したわたしたちの祖先は未知の世界に足を踏み出しましたが、それは危険への挑戦であったはずですが、それにもかかわらず挑戦したのは、ほかの生物にはない人類だけが持っている好奇心による革新によるものだったと思います。海の方こうに何があるのだろう、そのような好奇心によって人類はほかの生物とは異なり新しい文化を生み出してきました。環境悪化、資本主義経済の限界などによって21世紀は人類にとって重大な革新が求められることと思います。

学園の卒業生の一人としてあなたは、人生という長い航海のなかで何事にも懼れず好奇心を常に持ち続けてください。これを卒業生へのメッセージといたします。

Good luck in your next adventures with curiosity.



「縄文人の核ゲノムから歴史を読み解く」 神澤秀明 (国立科学博物館) 季刊「生命誌」87号、JT生命誌研究館

## Forever young

獣医学類 感染病理学分野 実験動物学ユニット 大杉 剛生



皆さん、ご卒業おめでとうございます。私も42年前、本学を卒業致しました。その当時と大学の風景は随分と様変わりしましたが、大麻から吹き上げる風はあの頃と同じです。この風に乗って私は国内外と飛ばされてしまいましたが、再びこの地に8年前に戻ってきました。

Bob Dylan (2016年ノーベル文学賞) は、Blowin' in the windで、いろんな問いの答えは風に吹かれていると歌っています。風に吹かれた私は何か答えを見つけられたのでしょうか。いいえ何も。風に吹かれて答えも飛んでいってしまうのです。Bob Dylanはつまるところ、いろんな問いの答えはどこにあるかなんてわからない、ここにその答えがあるなど言えないと歌っているようです。

私は本年度で定年を迎えますが、吹き飛ばされた地で多くの著名な先生方の定年を見てきました。その定年のメッセージとして「人間万事塞翁が馬」といわれる方が多かったと思います。この言葉は辞書を引くと「幸せが不幸に、不幸が幸せにいつ転じるかわ

からないのだから、安易に喜んだり悲しんだりするべきではない」とあります。ただ、多くの先生方は、「物事は気の持ちよう次第」と解釈されていたように思います。宗教を信仰されている多くの方は若い頃より容易にこの言葉を受け入れているように思います。礼拝等で自分の内面を磨くように諭されているからでしょうか。無宗教の方は、こういった習慣がないため定年になるころに、ようやくその膨大な経験から悟るのかもしれない。私もその一人です。Blowin' in the windと「人間万事塞翁が馬」は、人生の問いに対する絶対的な答えなどない、答えは各々の人の考え方にあるといっているようです。

Blowin' in the windをとりあげましたが、Bob Dylanにそれほどのめりこんだわけでもありません。中学、高校時代はCCR, Neil Youngに夢中だったように思います。Bob Dylanの曲で良くおぼえているのがKnockin' on heaven's doorとForever youngです。Knockin' on heaven's doorは、当時ベトナム戦争のさなかであり、その歌詞が強烈でした。とくに2番目の次のフレーズ。Mama, put my guns in the ground, I can't shoot them anymore.

ママ、銃を下に置いてくれ、もう撃てないんだ…傷ついた米兵が、ひとり死を待つ瞬間が目に浮かぶようではありませんか。とくにBobが歌う anymore のひびきが、虚無感をかもしだします。一方、対照的なのが Forever young です。決して老人にいつまでも若くいてくださいという歌ではありません。Bob Dylan が生まれてきた息子に贈った歌といわれています。最初の出だしでは May God bless and keep you always と歌います。「君に神の祝福とご加護がありますように」でしょうか。May S+V が続いてでてきて、May you stay forever young いつまでも君が若さを失いませんように、で終わります。英文法英語の抜けない私は、なぜ May なのか、I hope ~ I wish ~ ではだめなのかとか、韻を含めるためか、随分悩んだように思います。この曲を特徴づける May S+V の形が古語

であり、神をお願いするときなどに使う、少し格式ばった表現と知ったのは米国留学してからでした。この曲で一番好きなフレーズが、May you have a strong foundation when the winds of change shift. たとえ風向きが変わったときでも、きみがしっかりとした礎をもてますように。

Bob Dylan は Forever young で自分の息子に、いつまでも成長できる若さを保ちなさいという親としての願いをこめたと私は解釈しています。若さの最大の利点は、多くのことを取り入れ成長できるということです。老人は、新しい物事を取り入れることができません、朽ちるだけです、Knockin' on heaven's door なのです。

最後に米国留学を終え、帰国の途につくときにボスが私に送ってくれた言葉

Forever young and God bless you!!



白樺並木とわが愛車、Forever young号

## 循環農法と聖書

黒澤酉蔵先生が80年前に提唱した「循環農法」には、農業のみならず、多様な背景があります。ここでは「循

いて考えてみたいと思います。創世記1-3章の天地創めたのは最初の人間アダム前



「循環農法と聖書」の関係につ

す。造物語によれば、農業を始とされています。楽園追放する者として創造されています(創世記2章4節a)、楽園追放されています(創世記2章ように創世記にはふたつのふたつの相反する世界観がし、このようなふたつの世者の如く振る舞った近代の地時代から自然との共生をエコロジー時代への変化を

もありません。つまり、創世人間」の関係において人間が神になったかのように傲慢に振る舞った結果だと述べることで、人間(人)は神(天)に対してだけではなく、世界(地)に対しても謙虚にあるのがその本来の姿であると伝えているということです。

黒澤先生は「農業は天・地・人の合作なり」と言っています。「天・地・人の合作」とは、「人」が制御することのできない「天」(自然・気候)、千差万別で肥沃にするには丹精努力が必要な「地」(大地・土壌)、そして「天」と「地」の動きや特徴を敏感にキャッチする「人」の三位一体の関係を表します。そして、「天・地・人の合作」に基づき、尽きることのない土の生命力を育み、物質やエネルギーが循環する思想と実践が「循環農法」です。「循環農法」の礎でもある「天・地・人の合作」は、「天と地に仕える人間」という創世記の世界観と通底し、創世記が指し示すスチュワードシップ(神にこの世界を委託された人間の責務)を果たす人間の自然との共生、あるいはよりキリスト教的に言えば、神の被造世界に生かされている人間の謙虚さに通じると言えるのではないのでしょうか。

(宗教主任 小林昭博)

### あ と が き

卒業おめでとうございます。『出会い』85号(卒業式号)をお届けします。今年度で本学を定年退職される押谷一先生と大杉剛生先生に原稿をご執筆いただきました。新たなステージに歩

を進める卒業生のみなさんへの篤いメッセージに心を留めてください。「天使をもてなす愛」に生きるみなさんの未来が希望です!

(A.K.)

酪農学園大学キリスト教委員会  
〒069-8501 北海道江別市文京台緑町582番地  
Tel. 011-386-1111 (代表)



酪農学園大学は、2020年度(公財)日本高等教育評価機構による大学機関別認定評価において大学評価基準に適合していると認定されました。



(酪農学園大学公式サイト)